

学校運営協議会 学校経営・教育活動連携部会 会議録

開催日時	令和5年10月2日（月）10:40～11:50	
会場	本校校長室	
出席者数	学校運営協議会委員 2名	学校 3名
出席者氏名	委員A（今金町教育委員会 事務局長） 委員B（今金町農業協同組合長、後援会会長）	・校長 飯出 広行 ・教頭 金子 亘喜 ・事務長 市川 聡
記録		
<協議の柱> ○地域や社会、産業構造の変化に伴う本校生徒に求められる資質・能力及び職域の拡大と就労先の開拓について 《昨年度の協議から》 ○事務局員 「昨年度は寄宿舎離れ、就労先で求められる人材について協議した。本校の生徒数減少、寄宿舎離れに対する打開策があればいい。今年度の教育相談数は昨年度より増えているので、入学者は増える見込み。自宅から通いたいという生徒が増えている中、学校として何ができるかご意見をいただきたい。」 《学校に求められること》 ○委員A 「町内でGHが充足していない中、寄宿舎を有効活用しながら、自主・自立に向けた取り組みや3年間の寄宿舎生活のメリットを伝えていくことで、家庭から通うよりも一般就労にもつながりやすいと思う。ある程度自立した生活を送れる卒業生が増えると、町の中でも就労先が広がるのではないかな。町の資源を活用ながら、自立した生徒を育てるということを売りにしていけば、保護者も魅力を感じると思う。」 ○委員B 「入学者が減っているのは、全道的な傾向なのか？」 ○委員H 「中学校の卒業生が減少したことから、入学者の数も減ってきている。全道の高等支援学校でも、定員を超えているのは2校ほどで、全道的に生徒数が減少している。」 ○委員B 「入学した子ども達が将来独立していけるようにするためにも寄宿舎生活は必要だと思う。最近の生徒の傾向として、障害の程度が重くなっていると捉えたほうがいいのか」 ○委員H 「これまでは、障害が重たい生徒は義務併置の養護学校が多かったが、障害の重い軽いにかかわらず、生徒や保護者が教育内容を鑑みながら選択するようになっている。」 ○委員B 「国の制度で、2～3名の障害者を雇用しなければならないが、現状はゼロである。ミニトマトの仕事がメインにはなってしまうが、生徒の雇用に期待をしていたが、生徒数の減少や寄宿舎離れとなると残念に思う。何年か前から、就労支援を始めて、町に就労してもらおうと取り組んでいるが、なかなか期待通りとはならない。」 ○委員A 「地域連携について確認をする時期になってきたのではないかな。コロナの関係でできなくなったものもあると思うので、コロナ前に何をしていたのかを改めて確認する必要がある。」 ○委員B 「コロナ禍の3、4年は生徒たちにとっても自分たちの頑張りをアピールする場がなくなり、悔しかったと思う。現在は世の中も変わってきていると思うので、今までやっていたことをもとに戻すことも必要。」		

○委員A

「例えば、3年間は役場や教育委員会で就労支援事業として面倒を見て、その後今金で生活をしたいということであれば、農協に就職するなども可能な限りできると思う。」

○委員B

「一口に農協と言っても、いろいろな部署があるので、就労につながっていけると思う。」

○委員H

「生徒の実態もそうだが、生徒を取り巻く環境も変化している。家庭の貧困やヤングケアラー、虐待、性自認など、多様な生徒への対応が我々には求められており、卒業後の就労先の準備が我々の使命であると感じている。」

○委員A

「障害の程度の幅が広く、養護学校に進学したほうがいいという生徒も普通高校に進学している。障害の幅が広がりすぎていて、進路の選択も難しい。」

○委員H

「保護者の関心は、我が子の就労であると考えるため、出口の教育をしている以上は本校に入学すれば、自立した生活や独立した生活を送ることができるということを保護者に伝え、理解していただく必要がある。」

○委員B

「学校には自主・自立した生活を送れる生徒を育ててもらって、我々は受け入れの体制を整える必要がある。夏場だけの仕事ではなく、冬場の仕事もちろんある。」

○委員A

「町で取り組んでいる就労支援事業は町が賃金を支払っていて、研修派遣もできる。研修中も賃金が支払われる仕組みになっている。」

「早い段階で動き出さなければ、やらなくていいことが当たり前になってしまう。現段階でできることから積み上げていかなければ、以前のように戻すことは難しい。」

○委員B

「生徒たちが祭りに参加し地域貢献している。また、農作物や製品を販売することは、生徒たちの努力の結果だと思う。町にとって貢献度がすごく高いと感じている。」

○委員H

「健康祭りやワクワクフェスティバルなどに出店させてもらえることが生徒にとっても励みになる。」

○委員A

「これだけいろいろな分野の人がかかわっているので、どんどん相談されるほうがありがたいと感じる。」

○事務局員

「他校は委員を選ぶのに苦慮しているという話を聞くが、今金はその逆で誰を外すかで苦慮している。それほど委員をお願いしたい人材があふれている。地域性を感じる。」

○委員H

「後援会や町の教育委員会がかかわる学校は全道でも類をみない。これまで以上に財産を活用していきたい。」

○事務局員

「これまで今金町に残る生徒は施設の子が多かったが、施設入所者の進学が減ってきている。家から離れたくない生徒が多く、保護者も家から離れれば、お金がかかると感じている。3年ほど前から、檜山南部の小中学校に広報活動をさせていただいている。最近は檜山北部の小中学校の先生方の理解が少ないように感じている。特に特別支援学級以外の先生方が、本校にどれだけ理解を示しているか疑問である。来年度以降にはなるが、今金中学校にも広報活動をしたほうがいいと感じる。」